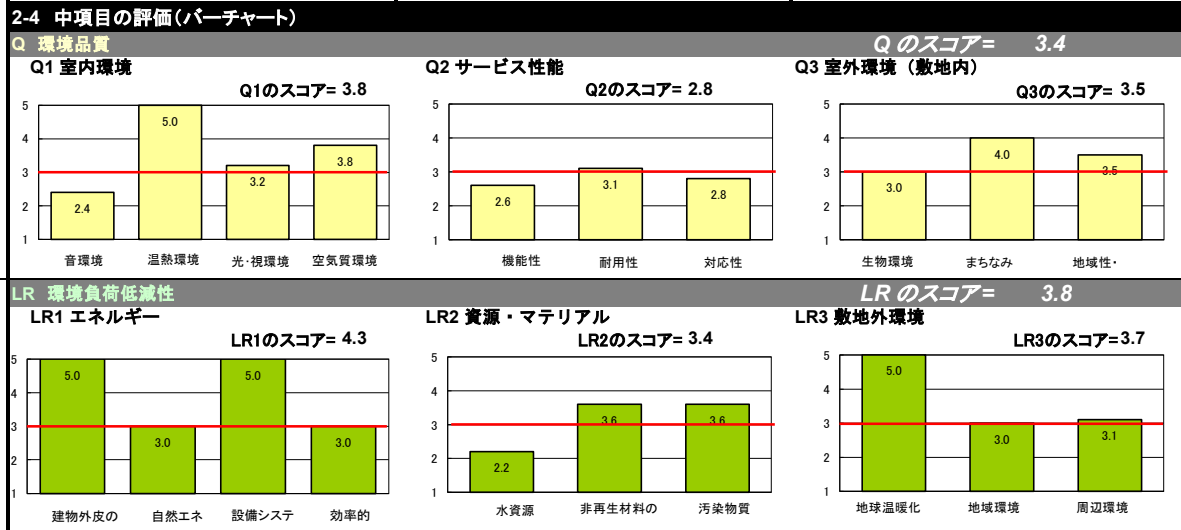
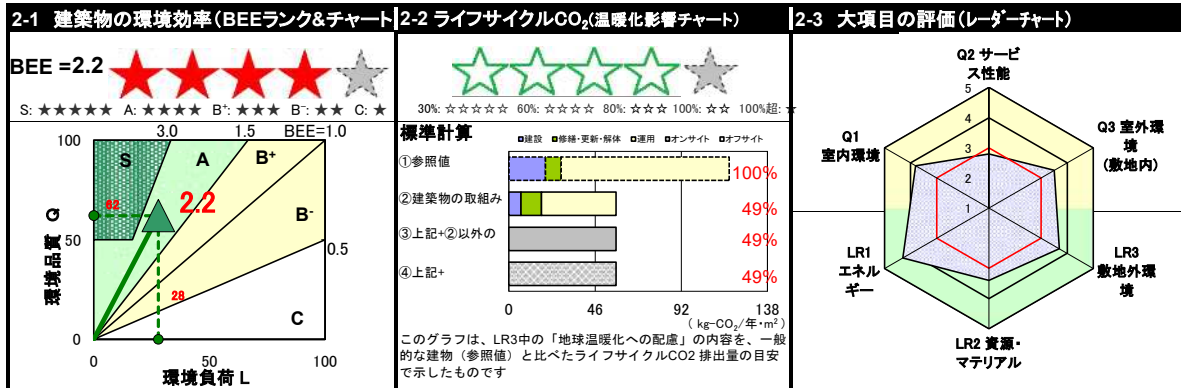


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	愛知県岩田住宅PFI方式整備事業	階数	地上9階		
建設地	愛知県豊橋市中岩田六丁目1番	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	372人		
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年10月16日		
敷地面積	8,282 m ²	作成者	株式会社小林清文建築設計室 今村 太郎		
建築面積	1,014 m ²	確認日	2025年10月30日		
延床面積	7,030 m ²	確認者	株式会社小林清文建築設計室 今村 太郎		



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>5.0</p> 	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p>  <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>26.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	26.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	26.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p> 	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p>  <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>木製ベンチ(県産材)、カウンター</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	木製ベンチ(県産材)、カウンター
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	木製ベンチ(県産材)、カウンター				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛知県岩田住宅PFI方式整備事業

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
3.2 グレア対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
4.2 換気										
4.3 運用管理										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1.2 心理性・快適性										
1.3 維持管理										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
2.2 部品・部材の耐用年数										
2.4 信頼性										

3 対応性・更新性					0.2	3.4	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	-	2.6	2.6	-	0.50
1 階高のゆとり					-	-	-	-	3.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					1.0	3.4	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	4.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=等級4を超える	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.75	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	岩綿吸音板(吉野石膏 タイガーズ)断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、取外し可能	3.0	5.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)					-	4.0	1.00	-	-	-	-
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境					-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率49%	-	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	駐車場、駐輪場ともに適切な量を確保している等	-	5.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	2.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				『光害対策ガイドライン』のチェックリストの項目を一部満たし、広告物照明を行っていない	-	4.0	0.70	-	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

愛知県岩田住宅PFI方式整備事業

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:26.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	<small>※表1-10参照(県産材)、カウンタートップ(県産材/3集積材)、屋根瓦(県産材/100%県産材)</small>

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 愛知県営岩田住宅PFI方式整備事業

計画上の配慮事項	
総合	住宅性能評価で断熱等性能4を超える等級、一次エネルギー消費量ZEH-M Ready水準を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。 また「まち・ひと・ふんか・とき」をコンセプトに、調和やコミュニティ、高耐久化と可変性等による計画により、良好な住環境である団地づくりへとつなげる。
Q1 室内環境	断熱性能を平成25年基準による省エネルギー対策等級4を超える等級とし、外皮性能に配慮。またF☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。
Q2 サービス性能	更新必要間隔の長い建材や配管材を採用する事で、永くより良い状態で建築物を使い続けられ機能的側面に寄与する。
Q3 室外環境(敷地内)	既存樹による生物資源の保存や、敷地内の日照・植栽条件に応じた中高木および緑地計画により、高い外構緑化指数を満たしている。また建物利用者が自然に親しめるようにベンチを設け、良好な緑地環境に配慮している。
LR1 エネルギー	適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めるとともに、高効率の設備を採用し建築物の環境負荷低減を図る。
LR2 資源・マテリアル	ODP、かつGWPが低い断熱材を使用し、フロンガスの発生を抑止し、環境負荷削減に向けた取組みに努めている。
LR3 敷地外環境	屋外広告物照明の非設置や、適切な交通計画とすることで、地球温暖化への負荷抑制に寄与している。
その他	特になし